

C'est très Bon! Vol. 124 Boulangerie

C'est TRÈS BON

2014. 7. 20

Kaori Onishi

～ おいしいパンの通信 ～

フランスの旅立ち②

去年9月パリでパン屋をやるという共同経営の話と断わった後、
ある方に今回の話で相談にのってもらったお礼のメールを送った時、ある一ツの話をもらいました。
フランスの会社と日本の会社が共同でパリでパン屋を立ち上げる話があるからその品以外の下
で働かないかという事でした。この時17区のパン屋エラール・マテール氏が強く私のことを推薦して
くれたから来た話でした。前回断わった話も、このためであったのか...とすべの流しが糸内得さ
しから喜びました。またまた何度も何度もこのメールを言われました。でも結局この話はうまく
先には進まず(今も具体的に全く進んではいません)すく期待は分、すく落ち込みました。
期待するからいけない...努力してるあなたは期待を手放し待つしかない...と自身に言聞
かせてました...この9月から今年の3月まで自分の夢の具体的な進展は全くなく。
ほんとはこの夢...のか、これだけの大きな壁をこえるのか、何か具体的な一歩がほんとは
踏み出せるのか...すくすく考え続けました。遠く現実性のある将来像を描くことは
はないのか...そんな中何度も夢をあきらめず想...続けること大事に伝え続けてゆることが
あり何度もおぼろげに思いました。この話を話す中で私が、人生でやりたいことも見えてきました。
私は信頼する人からこれやってみたら? これ...とすすめてくれたことは何でも試みてみる
様にしています。やってみて、違うな...と思うこともありますが、大きな登壇ができることはいかに
です。その方からお世話になった人や出会った人にハガキを送りなさい。ハガキは文章が短く
てもいいしメールとかより絶対によいと言われたので、グリスノットを数通送り出した。
フランスへ何通か送った中で返事が返ってきたものは少なかつたのですが、1つうれしいハガキが
届きました。9月の話の時に相談にのってくれたある方と3月2-0パリの時フランスへ行く時に
会う約束ができたからです。(その方とは9月のいづれの話以来連絡がとれてなかったため
このハガキがきっかけになりました) 3月上旬フランスへ行く時、私はやっ一つの決断を
する事ができていました。一生一度きり、後悔しない人生を送るために一歩を踏み出そう。
フランスで店をやるという夢をかたどるには日本には限界がある。フランスへ行って実際に
牛物件を探したり情報収集をしよう。ビザは無理だろうからビザなしで居る3月
で一度戻ってきてみる...という...か...これは考えはいい。いざ決断をするには
ほんとに悩みました。自分の責任、長年つき合ってきたスワップを返済していく。トビのパンを
待つ、下にお客の心。安定した収入と積み上げた周囲の信頼。住む家か
あり車があり何不自由ない今の生活を捨て、外国で一からまた積み上げる
勇気。その決断は重いものだった。時間は要したけれど、やっ一歩を踏み出す決断はした。

3月何日から道連れに出た... フランスへ行き来た。この時期期待は手放して置いた
でもいざ友人に会うためのアポイントをとり来た。物件情報に詳しいフランスの不動産
にお会いしていろいろ伺った。製粉会社担当の人を善人紹介してもらった。来た
この時にとても役に立ったのが 今のフランス語版のプレゼン資料です。こんな店にしたいの
こんな不動産の種類を作っているか スタッフは、自分の経歴や日本人としての利点とある所
は... などで短絡的なフランス語とフランスの写真で 今の考え、想いを理解してもらう作り
ました。うまくフランス語がまだ話せない私にとって そのプレゼン資料はこの時とても役に
立ちました。やる気も伝わった様です。パリで共同経営でレストランを営む日本人シェフにもお話を
うかがいました。メラルさんにもアポイントをとって今後の住居や仕事の相談をしようと思っ
ていました。3月クリスマスカードを送り返事が返ってきた。トニーと一緒に シュルツの製粉会社
を訪ねる約束をしていました。この11月からのアポイントの中で何とか1歩の歩みを見出した
と考えたのです。トニーと一緒に行った シュルツの製粉会社の社長から ある一つの提案を
聞いたのです。まだフランスに1年ほど来てやろうと思っているのか 決断を聞かれました。この時私の中の
決断はできていたのでその事を伝えました。今の就労ビザを取らせるために雇用してくれる
ことでした。今の製粉会社が シュルツの街に不動産を去年11月に作り持っています。
そこで働きながらこっちのやり方を深く学ぶ体面にパリへ行くと(シュルツから30分ほど車
で)物件を探したり情報収集にはどうか。パリで始めるのもいいけど シュルツの方が
落ち着いてくれるのではなにかと 数ヶ月〜1年と時間を決めて 次のステップへの準備を
進めようかと言ってくれたのです。1年ほどに信じられない様な提案でした。就労ビザを申請
してくる??? その日夜このことを考えて寝れませんでした。フランスは日本と違い、製粉会社が
不動産の物件情報をよく知っています。若し職人さんは製粉会社の信用をバックに店を始め
ることも多いですし、いざなう味で製粉会社に入社しようと思ったら今の私にとって 月給もな
いことでした。この時シュルツに 今のビザの申請をしてくる製粉会社の社長とお会いしたのが2回目でした。
1回目は、9月6日の時メラルさんの店へ相談に行った時たまたま(トニー神様の善きおた
のたうて今は思っています...) 5分ほどお会いした時です。今の会社がわざわざ外国人の
あなたを知らない人のビザを申請してくるなんて常識では考えられません。それを
可能にしてくれたのは、10年先の知り合いである メラル氏の強い推薦、今の信頼
でした。私の夢を現実すべく、なかなかうまくいかないけど 必ずやる前に進み出した
今の姿と情熱が 彼の心に響かしたのだと思います。何か助けをあげようとしてくれたのだ
と思います。情熱がありある程度のスキルや知人材料がフランスには少ないから そういう人材
としてほしいという事も言われました。でも誰か人生の転機がある時に、今に立つあなたを
助けたらと思いたいという事も言われました。今の言葉がきけた時、涙が止まりませんでした。
いざなうあなたに きっと今の決断はまちがってなかった... 次は... k.o.